

第1回 軽金属学会功労賞

軽金属学会功労賞は、永年にわたり軽金属学の発展並びに当会の活動に顕著な貢献をした者に贈られる。軽金属学会功労賞選考委員会（委員長 佐藤史郎）の審査を経て平成11年2月22日（月）開催の第25回理事会において慎重審議の結果、田中孝一君、藤川辰一郎君の2名の授賞を決定、(社)軽金属学会第96回春期大会第1日目の5月15日（土）に熊本大学において表彰式を挙行政した。

受賞者



田中孝一君

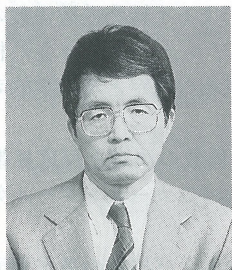
(元 古河電気工業株式会社)
昭和9年11月13日生 (64歳)

受賞理由

田中孝一君は、我が国アルミニウム産業の揺籃・成長期に、アルミニウム需要の開拓を広範囲に担当、貢献してきた。その業績は顕著である。具体的には、アルミニウムの用途開発に際し、製造・需要側の両面にわたって課題解決に当たっており、特に車輛、船舶、航空機用等の構造用材料、更には、自動車用、各種空調器等の熱交換器用材料、各種包装用材料、建材用材料等の開発・実用化・普及発展に尽力した。その間、アルミニウム生産の規模拡大に伴う各種生産技術の開発改善にも関わっている。

学会活動については、編集委員、研究部会委員、理事等を歴任し、論文投稿および春秋大会での研究発表等に積極的に参加するほか、(社)軽金属協会、(社)軽金属溶接構造協会、(社)日本鉄道車輛工業会、(社)日本航空宇宙工業会、工業標準化委員会等の委員会へも積極的に参画し、軽金属学会活動の成果を基に産業界の発展に対する貢献も極めて顕著なものであり、軽金属学会功労賞に値すると判断し、ここに表彰する。

受賞者



藤川辰一郎君

(東北大学大学院)
昭和16年2月12日生 (58歳)

受賞理由

藤川辰一郎君は、昭和39年以来一貫して純アルミニウムおよびアルミニウム合金の材料物性分野の多岐にわたるテーマについて、例えば、電気比抵抗測定や粒子加速器の利用、中性子散乱測定、比熱測定、各種の拡散実験技術、電子顕微鏡観察、スパッタ技術および内部摩擦測定などを駆使して、数多くの境界領域的、先駆的研究を行ってきた。

これまでアルミニウム合金の時効析出、状態図および拡散を中心に、研究論文、解説、軽金属学会研究部会報告、各種研究所報告等を発表している。これらの結果は国内外で頻繁に引用されており、拡散および平衡固溶度の研究結果は、Landolt-BoernsteinのPhysikalische Handbuch第26巻(Springer-Verlag)およびBinary Alloys Phase Diagram (AMS)に、それぞれ推奨値として掲載されている。

学会活動については、評議員、東北センター(現東北支部)代表幹事、研究部会委員、RASELM'91実行委員等で貢献しており、さらに軽金属学会論文賞をこれまで2回受賞し、軽金属奨学会からの特別研究資金(課題研究)を受けている実績に加え、現在まで35年にわたる継続的研究成果から見て、軽金属学会功労賞に値すると判断し、ここに表彰する。